

○今回のポイント

1. 日本人と仏教

- ・ 仏教：外来思想として移入され、日本独自の展開をする → 仏教と葬送儀礼との結びつき
- ・ 仏教伝来 6世紀頃 語呂：仏教伝来 ゴミ屋は午後に
→ 538年(『上宮聖徳法王帝説』、『元興寺縁起』) or 552年(『日本書紀』)
- ・ [①]…外国から渡来した神。金色の仏像や、荘厳な仏具・経典→新たな神の威力

↓
仏教に対する在来の神の祟り (ep. 物部守屋 vs 蘇我馬子)

2. 仏教と聖徳太子

- ・ 聖徳太子…仏教をはじめて本格的に理解

・ [②] →和を重んじる姿勢が一貫 → 根底には仏教的な人間観

(1)人間=[③] (欲望にとらわれた無知の存在)

→誰もが完全無欠ではないので、独断によらず議論にかける

(2)万人のよりどころは、[④] (仏・法・僧)のみ

・ [⑤]…『法華経』、『勝鬘経』、『維摩経』。世俗生活の中で仏教の真理が実現できることを強調。

・ [⑥]…世の中は空しく仮のものであり、ただ仏だけが真実である。現世への執着を否定し、仏の真理に立って生きることを説く。

3. 神仏習合

- ・ 奈良時代

↓
[⑦]…日本固有の神信仰と仏教信仰が融合。神社に神宮寺が建立され神前読経が行われる。一方、寺には鎮守の神が祀られる。

- ・ 平安時代

↓
[⑧]…仏が本地(心理の根源)で、神は民衆を教化するため垂迹(カタチと^{かり}なって現れること)したとする思想。神は仏が「権に」現れたものとする権現思想が広まる。ちなみに神が本体で仏が権のものだとするのが反本地垂迹説である。

- ・ 鎌倉時代

↓
[⑨]…神信仰を仏教から自立させる。伊勢神道は反本地垂迹説の立場から神主仏従をとり、[⑩] (偽りのない素直な清らかな心)の徳を説いた。

- ・ 明治時代

↓
[⑪]…明治政府による神道の国教化のため、神道と仏教を分離して、日本古来の神と伝来した仏とを同一視する神仏習合の習慣を禁じる。

4. [12]]…仏教の力によって国家の安泰をはかる。

・聖武天皇

→諸国に国分寺を建立して、官僧が護国・滅罪の経を読誦。

→各種教学の研究…[13]] ☆三時のホットケーキくしゃくしゃになりにつけり
三論 法相 華嚴 俱舎 成実 律

→[14]]の来日…聖武天皇、東大寺の戒壇で菩薩戒を受ける。

・[15]]…公共事業と貧民救済により民衆受けする。私度僧集団を率いたため弾圧されるが、聖武天皇の尊崇を受け、東大寺大仏の建立に参加。

5. 一切衆生の成仏[最澄]

○最澄の業績… 比叡山 延暦寺 天台宗

(1)大乘仏教の総合を目指す

・新たな官僧養成方法…菩薩戒の受戒。比叡山にこもっての学問修行。

・座禅や[16]]の取り入れ。

(2)[17]]…全ての生きとし生けるものは仏となる可能性を持っている

6. 即身成仏[空海]

○空海の業績…高野山 金剛峰寺 真言宗

・密教の重視

・顕教…聞き手の能力に応じて説かれた釈迦の教え

・密教…宇宙の永遠の真理が**大日如来**という仏。**大日如来**による教えが密教であり、不可思議で深遠。

・[18]]…この身がそのまま仏になること。三密の行によって肉体そのものが大日如来と同化し、宇宙に偏在する仏の清らかな命を力強く生きることができる。

三密の行…①手に印契を結び、②口に真言(マントラ)を唱え、③心を仏に集中させる→仏のパワーが伝わり、人は受け止める(加地)→超能力スキルゲット。

7. 末法思想と浄土信仰

・[19]]…現世における仏の救済の可能性を否定する仏教の歴史観。平安時代中期以降、戦乱や天災が相次ぎ、人々は無常に浸り末法思想が広まり、浄土信仰が求められた。

・[20]]…悟りを完成した仏の国土である浄土を求め、現世を超越し往生を目指す信仰。

(1)[21]]『往生要集』

・[22]]…欲望や苦悩に満ちた現世を捨て、浄土に生まれることを求む。

・[23]]…心に阿弥陀仏や極楽浄土を思い描く。

・[24]]…口に「南無阿弥陀仏」と唱える(※「南無」は梵語で「私は帰依します」)。

(2)[25]]



平安時代中期の僧。諸国を遊行して念仏の功德を庶民層に布教。道路を通し、橋を架け、寺や堂を修繕し、野原の死骸を火葬した。京都では乞食をしながら病人の世話をしたので[26]]とよばれる。

・[27]]…鉦を鳴らし瓢箪をたたき、念仏を称え踊って死霊の鎮魂をする。

→鎌倉新仏教の一遍も踊念仏を取り入れる。